

専門発展科目の科目概要(1) -グローバルコミュニケーション(GC)領域-

科目区分	科目名	科目概要
	くらしと地域	人間が生きていくうえで、住んでいる地域社会との関わりなしには生活を維持することはできない。たとえば、自分の身の回りにあるゴミや環境の問題、食と安全の不安、災害の危険、防犯対策など、地域に住む人々と力を合わせて対応しながら課題解決策を考えていく必要がある。また、祭りや民俗芸能、民俗行事・イベント等に参加して、協力し合って活力ある地域社会を創り上げていくを通して、共同体の一員であることの自覚を持つことが大切である。地域の担い手として各種の役割を分担しながら人々と共にやり遂げる喜びを味わうことは、みずからの人生を充実させつつ、地域愛・郷土愛を育むことにつながる。この授業は、以上のことについて具体的な地域の実践事例をとおして学び、課題解決策や地域の活力を生み出す方法などを考える。
	地域政策論	地域政策の考え方、手法と課題について理解し、実践的に応用する能力を身につけることである。このために、先ず戦後日本の地域政策に関する基本的知識を学修し、近年における国土政策や地方創生政策の展開等を理解するとともに、空き家・空き店舗の利活用や土地利用の問題など、都市政策の領域におけるできるだけ身近な諸課題を取り上げ、また各都市における都市づくりなどの具体的事例に即して、都市における課題解決方法を考える力を身につける。
	談話コミュニケーション論Ⅰ	コミュニケーションにおける言語研究の中で談話分析を取り上げ、その理論や方法論の基礎を学ぶ。談話という統一的な文のまとりに、どのような構造がみられるかを理解し、その応用方法について考察できるようになる。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を深めながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。
	談話コミュニケーション論Ⅱ	談話研究についての理解を深める。最近の実証的談話分析研究の理解を踏まえつつ、実践例を参考にしながら、分析の手法を具体的に学び、データ収集から分析作業までを実際に試みる。日常の「ことば」を注意して観察・意識しながら会話のメカニズムを分析的に捉える視点が身につくようになる。事前に配布する資料およびテキストを精読し、自分なりの理解を深めながら討議し、最後に与える主題についてレポートを出す。
	日本語学Ⅰ	現在使われている日本語はどのように生じたり変化したりしてきたかを知るため、古典語から現代語までの歴史を概観する。また、これからの文化の変化に伴い、日本語はどのように変化していくのかを見極めるため、日本語を中心とした言語学の知識を修得するとともに、言語の歴史や変化と生活文化が密接に関係していることを学ぶ。
	日本語学Ⅱ	これまで、日本語については様々な研究がなされてきている。日本語学や社会言語学ではどのようなことが明らかにされてきたかを知った上で、研究成果(論文)を読み、主張の述べ方や論の組み立て方、必要項目などを把握することを目的とする。また、複数の研究成果を比較し、より正確で妥当な考え方について検討し、卒業研究につながる、言語の適切な調査法や整合性のある論の組み立て方を学ぶ。
	異文化論Ⅰ	「文化」とは何か、そして「異文化」とは何かを理解するため、基本的な文化論や社会理論を学びつつ、「他者」である異文化との対比の中でいかに自文化の独自性が形成されるかを概観する。特に、自己アイデンティティ形成のプロセスにおいて、ステレオタイプの思考や排除の理論がいかに影響するかを、具体例を交えながら考察する。さらに、身近に存在する「異文化」にも注目しながら、異文化間の折衝に必要な分析視点の獲得を試みる。
	異文化論Ⅱ	「異文化論Ⅰ」で学んだ文化論や異文化理解の基本理論をふまえ、「異文化」間で生じる摩擦や衝突の本質を理解し、異文化にまつわる課題や問題解決に必要な知識を修得する。特に、異文化間の折衝に不可欠なコミュニケーション・スタイルに注目し、その違いから生じる衝突やトラブルを回避するための方法論を概観する。加えて、国際的な問題から日常的な場面まで幅広く具体例を想定し、異文化理解に有効な思考力鍛錬のための方策についても考察する。
	対照言語コミュニケーション論Ⅰ	私たちが日ごろ慣れ親しみ、当たり前だと思っている表現をそのまま外国語にしたり、同じ態度をとったりすると、真意が伝わらないばかりか、誤解を生じることさえある。文化の違いから来るコミュニケーションの行き違いには、どんなものがあるのか。例えば、冗談を言うという行動自体はどの言語文化にもあるが、どんな場面でどんな顔をして何と言うかは違い、場にそぐわなかったり、冗談だということが通じない場合もある。この授業では、同じ場面で文化によって言語行動がどのように違うかを対照する。
	対照言語コミュニケーション論Ⅱ	「対照言語コミュニケーション論Ⅰ」で学んだ、表現や言語行動の違いがどのような文化の違いによるものなのか、分析し、考察する演習を行う。また、発達障害をひとつの「異」ととらえ、「心の理論(他者の心を類推し理解する能力)」から、そのコミュニケーション上の問題がどのように説明されるかを知る。さらに、日本語の中にも文法や表現の違いがあり、ある方言と他の言語とにむしろ共通性があるケースを観察し、考察を進める。
GC領域	談話言語演習	日本語とそれ以外の言語による会話において生じる様々な現象を比較対照することによって、異文化接触における問題について検討する。会話の教材や身の回りで起こっている言語・文化接触などから、分析のためのデータを用意し、そこに使われている言語・文化を比較対照して分析する。グループでデータを収集し、グループディスカッションを通して、分析を進める。グループ発表を行い、全体で議論を深める。

談話コミュニケーション演習	<p>本学の協定校で日本語を学ぶ学習者との双方向遠隔授業方式で日本の文化を発信する。日本の文化を外国へ伝えるための調べ学修が中心で、それを発信するための表現方法や関わり方について学ぶ。グループによるプロジェクトワーク形式で、発信する内容を取材し、分かりやすくまとめ、発信する。主に日本語で書かれたものや日常的にやりとりしている会話など、言語文化に関わる内容に焦点をあて、取材し、発信する。オンライン発信に加え、取り上げたテーマを分かりやすくまとめた教材作成も行う。</p>
地域言語演習	<p>身近にあることばを調べるための調査方法の種類を学んだ上で、自分の仮説や主張に合った適切な調査方法を考え、主に文献等の既存資料、学内アンケート等を用いて、調査を実施する。研究方法を学び、テーマ決定から調査の実施、結果のまとめ方まで実践的に学ぶ。</p>
地域言語コミュニケーション演習	<p>言語文化を目に見える形にする手法を通して、私たちの身の回りにあることばと文化のつながりを学ぶ。授業では、その具体例の一つとして、南山形地域のことばと文化を取り上げ、ことばの辞書の意味だけでは生きた形でことばをとらえたことにならないことを踏まえ、言語と文化のつながりを知り、それを客観的に見える形にする手法と知的楽しさの味わい方を培う。最終的には、調査結果を整理し発表すること、あるいはWEB版南山形ことば集の形にまとめることを目的とする。</p>
異文化演習	<p>価値観や行動様式の異なる「異文化」同士の折衝の場を想定し、日常的な異文化トラブル解消のために必要な知識と行動スキルを体験的に学ぶ。他者理解のための理論や異文化間衝突の原理などの既修得事項を活用し、共存や協働を可能にする考え方や行動ができるようにすることを目指す。具体的には、国籍や性差、年齢差などで現実的に異文化折衝が必要な場面を設定し、グループワークによる検討や発表等を通じて多文化時代に必要な課題解決能力を磨く。</p>
異文化コミュニケーション演習	<p>日常生活における低コンテキストな場面でのコミュニケーションを想定し、「常識」が通用しない場で直面する異文化摩擦や衝突のメカニズムの理解と、トラブルを回避可能な思考パターンや行動実行性の獲得を目指す。具体的には、ジェンダー、年齢、国籍などの多様な差異を含むコミュニケーション・スタイルの問題を取り上げ、「認識」「情動」「行動」の3つの側面に注目しながら、グループワークとディスカッションを通じて異文化コミュニケーションターとして備えるべき能力の鍛錬を行う。</p>
言語理解演習	<p>コミュニケーションの行き違いが起こった具体的な事例を取り上げ、「対照言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」で得た知見を活かして、その原因を分析し、対策を考える。分析に当たっては、文献を検索して読み、引用して、それに対する自分の考えを整理する。グループ・ディスカッションの後、口頭で発表を行い、まとめとして各自が書く活動を行う。</p>
対照言語コミュニケーション演習	<p>「対照言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」及び「言語理解演習」などで学んだ、ある文化における言語行動の特性やコミュニケーション・スタイルの違いの理解を前提とし、異文化接触の場での課題解決など、学生それぞれが研究テーマを設定して分析・考察を進め、発表を行う。発表では、引用を適切に行い、文献情報を明記する手順を実践する。</p>
英語エクспRESSIONスキル	<p>日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、英語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。</p>
韓国語エクспRESSIONスキル	<p>日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、韓国語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。</p>
中国語エクспRESSIONスキル	<p>日常的话题から特定のテーマに至るまで、相手に伝わる表現の仕方的確な情報提示の方法を理論的に学び、より高度なプレゼンテーションやディスカッションを可能にする表現能力の基礎を作ることを目的とする。具体的には、中国語特有の文章構成や説明手順の特色、コミュニケーションにおける特性などを理解したうえで、家庭や学校の身近な場や、表現力や交渉力がより必要とされる職場などでの議論などを想定し、ケース別に対応方法や具体的な表現方法を学修する。</p>